

バレーボールにおける学習指導に関する一考察（第3報）

— 大学生のバレーボール観について —

宮 内 一 三 *

1. 序 論

1999年5月、文部省は、2002年度から始まる完全学校週休5日制に即した小・中学校の学習指導要領を公表した。今回の改定は、完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、児童に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの〔生きる力〕の育成を図ることを基本的なねらいとして行ったものである。

その中で小学校学習指導要領の体育の目標は「心と体を一体としてとらえることを重視し、豊かなスポーツライフの実現及び自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を培うことを目指し、「運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進」及び「体力の向上」が相互に密接に関連していることを示した。そして、今回の改定で「ゲーム」において第3学年・第4学年では、従前は「ポートボール」、「ラインサッカー」及び「ハンドベースボール」と示されていたものを、地域や学校の実態に応じて運動の取り上げ方を弾力的に行うことができるように、「バスケットボール型ゲーム」、「サッカー型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」と改めた。また、「地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる」ことを「内容の取扱い」に示した。

ここで今回導入されたバレーボール型ゲームにおいて、(財)日本バレーボール協会が1990年より普及に努めていたソフトバレーボールが、小学校の体育の授業において取り扱われるようになることになった。

ソフトバレーボールとは、

- ① ボールが大きく、軽く、柔らかいため、バレーボールのもっとも重要な基礎技術である「パス」が簡単にしかも安全にでき、誰もが手軽にできるというバレーボールの特性がいっそうはっきりするよう工夫されている。
- ② 既存の施設・用具（バドミントンコート、支柱、ネット）がそのまま活用できる。
- ③ 軽スポーツの持つ「取り組みやすいがあきるのも早く、定着しにくい」という一般的な短所を改善し、性・年齢・体力・経験・技能などのレベルに応じて、単純な基礎技術による初歩的なゲームから、複雑な応用技術や各種の作戦・戦術を駆使した高度のゲームまで、多様な楽しみ方が工夫できる。
- ④ 正規の6、9人制バレーボールそれぞれの長所を生かしているため、バレーボールの持つ特性に触れることができる。そのため、6人制や9人制バレーボールの練習の1つとして活用できるとともに、ソフトバレーそのものが独立した競技として楽しめる。

以上のような特性があり、さらにボールのスピードが遅いためラリーが続きやすい、コートが狭いため相手コートに返球しやすい、4人でのローテーション制（ただし、ミニソフトバレーではフリーポジション制）やフリースパイク・フリーブロック制（ただし、ファミリーの部ではバックに位置した大人の競技者のブロックや攻撃的なプレーは反則）を採用しているためにボールに触れる回数が多く、等しくプレーできるチャンスが用意されているなど「みんなのスポーツ」にふさわしい要素を備えている。

しかし、ソフトバレーボールの導入によりバレー

* 非常勤講師

ボールが普及されることが期待されるが、受講生がバレーボールをどのようにとらえて感じているのかを教師が知っておくことは、授業を展開するにあたり重要なことである。そこで、本研究の目的は今までに体育の授業でバレーボールを経験してきた大学生が、バレーボールをどのように感じているのかを調査し、究明していくことによってこれからのバレーボールの指導の基礎資料にすることとする。

2. 研究の方法

調査期間 1999年12月

調査対象 KS大学 保健体育理論受講生77人

T大学 スポーツ科学I受講生77人

R大学 スポーツ実技(バレーボール)
受講生18名

MG大学 体育実技(バレーボール)
受講生26人

OT大学 バレーボール受講生95名
合計 293人

調査方法 講義時間内に私案のアンケート用紙を配布しその場で回収した。(回収率100%)
データ処理にあたっては、Lotus1-2-3 97を使用。

3. 結果と考察

質問項目ごとに集計結果をみていく。

1. バレーボールは、好きですか？

バレーボールが、好きかどうか聞いてみた(図-1)。69.3%の203人がバレーボールが「好き」と答えており、「嫌い」と答えたものは4.8%の14人であった。しかし、今回の調査対象にバレーボールコース(以下バレーコースとする)が含まれていることもありこの数値からだけで一般的な傾向として考察することはできないと思われる。そこで、授業形態別にバレーボールを選択したバレーコースのクラス・バレーボールに関係なく編成された必修のクラスそして将来体育

指導者を目指しているもの対象の体育学部のクラスに分けて集計した結果が図-2である。その結果を見ると、バレーコースで「好き」と答えているものが86.4%で他の2コース(必修59.7%, 体育学部76.8%)よりも高い値であった。また、「嫌い」と回答したものはいなかった。バレーボールがしくて履修したクラスなので当然の結果であるが、指導者としてこれからも好きであると回答するものが100%になることを目標に研鑽をつむことが必要であると思われる。必修の中でも59.7%と約6割のものがバレーボールが好きであると回答しており嫌いとは回答しているものは8.4%であった。今後、小学校の3・4年生と今までより早い段階からバレーボールに接する機会ができるので、指導方法を工夫することにより、将来バレーボールが好きなものが増えて嫌いなものがいなくなるようにするにはどうすればよいのかをこれからも研究する必要があると思われる。

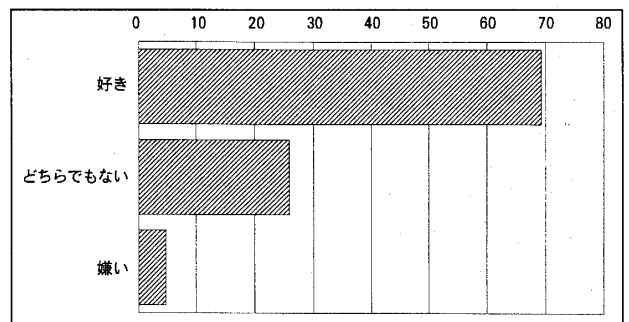


図-1 バレーボールが、好きですか？

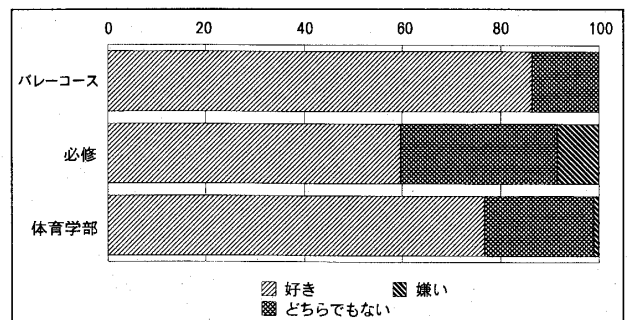


図-2 バレーボールが、好きですか？(授業形態別)

2. バレーボールの授業では、何が楽しいですか？

バレーボールの授業で楽しいのは何かを聞いてみた(図-3)。「ゲーム」と回答したものが圧倒

的に多く84.6%であった。やはり、バレーボールに限らず球技の楽しさはゲームにあると思われる。しかし、基本技術や技能も未熟なうちからゲームを行っても単調でつまらないゲームとなりかえって興味を失うのではないかと思われる。したがって、ルールの工夫などによって指導計画の中でできるだけ早い段階からゲームを導入することが、受講生の興味を持続させるのに有効ではないかと思われる。

また、技術練習の中では、「スパイク練習」が14.7%でトップとなり以下「サーブ練習」7.8%、「レシーブ練習」7.5%、「ブロック練習」5.1%、「トス練習」3.1%となっている。技術練習では、スパイク練習と他の技術練習を複合的に行うような工夫が必要であると思われる。

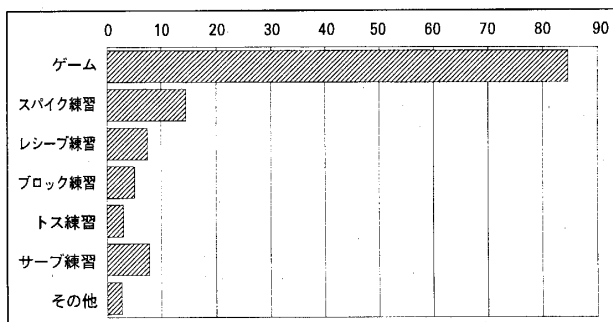


図-3 バレーボールの楽しさは、何ですか？

3. バレーボールの試合での楽しさは、何ですか？

前項の質問で、バレーボールにおいてゲームが楽しいと回答したものが圧倒的に多いという結果が出たが、それでは、試合（ゲーム）で何が楽しいのかを質問した結果が図-4である。その結果を見ると、一番多かったのが「ラリーが続くこと」で51.2%、以下回答率の高かったのは「試合が盛り上がる」42.3%、「チームワークがいいこと」34.5%、「スパイクが打てる」22.9%、「勝つこと」17.7%などとなっている。これらの結果から受講生の試合での楽しさは、「勝つこと」というような試合の結果よりも「ラリーが続くこと」、「試合が盛り上がる」、「チームワークがいいこと」などの試合内容を楽しんでいることが明らかになった。技術に関する内容では、「スパイクが打てる」

22.9%、「ブロックが止められる」11.9%、「レシーブが上がる」8.9%、「トスが上げられる」4.4%、「良いサーブが打てる」3.8%となる。授業の中で技術練習でもスパイクが楽しいという回答が各技術の中で一番多かったが試合においても同じ結果であった。サーブは練習では楽しいという回答が各技術の中で二番目に多かったのが試合では一番低かった。変わりに試合では、ブロックを止められると回答したものが二番目に多くなっている（技術練習では四番目）。

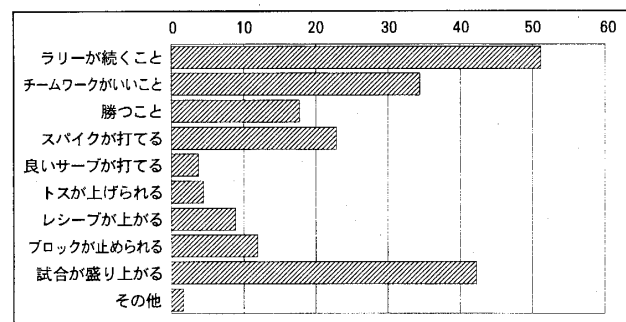


図-4 バレーボールの試合での楽しさは、何ですか？

4. バレーボールの試合でのいやなことは、何ですか？

次に試合でのいやなことについて質問した結果が図-5である。楽しさの要因で上位を占めていたことの負要因である「ラリーが続かない」34.1%、「試合が盛り上がらない」33.1%、「チームワークが悪い」29.7%が上位を占めた。ここでも試合の結果よりも、受講生が試合の内容を重視して楽しんでいることが伺える。また「試合に負ける」17.7%ことよりも「自分のミスで負ける」20.1%ことをいやだという回答が上回った。チームスポーツであるバレーボールで自分のミスが原因で負けることをいやがっているものが多いことが判明した。技術面で、できなくていやなことは練習と試合で楽しいことの一番だったスパイクが11.9%でここでも高く、受講生にとってバレーボールの技術でスパイクができるかできないが、楽しいかどうかに結びついている傾向が伺える。また、楽しいことで二番目になっていたブロックが最下位になっており、ブロックはできれば楽しいが可能な

くてもあまり気にしていないことが伺える。レシーブは、二番目になっており、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）のファーストプレーとなるレシーブができるかどうかという重要性を、受講生が感じている結果ではないかと思われる。

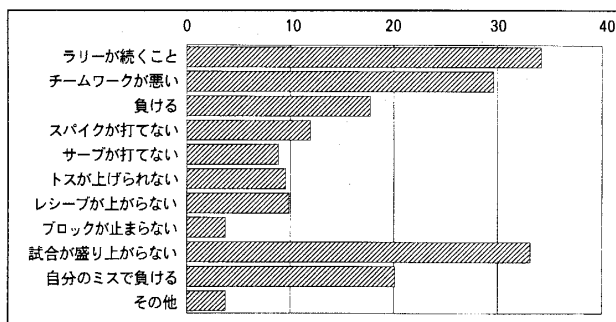


図-5 バレーボールの試合で嫌なことは、何ですか？

5. バレーボールの各技術は、好きですか？

バレーボールの各技術を好きかどうかという質問をした結果が図-6である。その結果、「スパイク」が好きだと答えたものが67.5%でトップだった。図-3・4・5の結果などを合わせても、受講生がバレーボールの技術の中でスパイクが一番好きで、スパイクが打てるかどうかによって試合が楽しいかどうかに関係しているという結果が伺えた。以下、好きという回答の多い順に並べると「レシーブ」58.6%、「サーブ」57.2%、「ブロック」44.5%、「トス」43.7%の順となった。

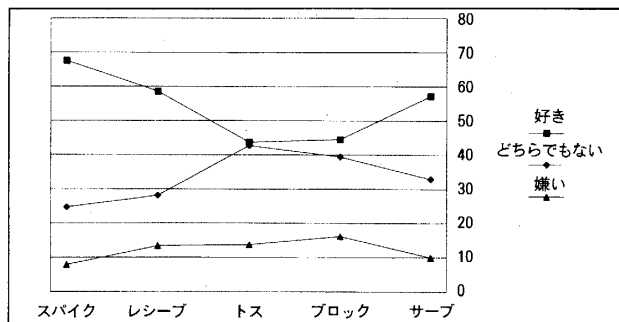


図-6 バレーボールの各技術は好きですか？

6. 将来、バレーボールをする機会があれば積極的に参加しますか？

バレーボールが、生涯スポーツとして受講生に受け入れられる可能性があるのかどうかを調べる

ために6の質問を行った。ここでも1の質問と同じ理由より、授業形態別に結果を集計結果が、図-7である。バレーボールコースの受講生で「する」と回答したものが54.5%は意外に少なかった。その理由としてコース選択の時に第一希望の種目に入られずにバレーボールコースに来ているものがあること、また授業だからスポーツに参加するが自ら積極的にスポーツに参加することは嫌がっているものがあることなどがあるのではないかとと思われる。体育学部の学生が一番積極的で72.6%、必修のクラスでは45.1%であった。体育学部の学生がスポーツ参加に積極的であるのは当然と思われるが、必修のクラスでバレーボールへ参加することに積極的なものの割合が45.1%あったことは、バレーボールが生涯スポーツとして受け入れられる可能性の高いことを示しているのではないかとと思われる。また、「しない」と回答しているものもバレーボールコース2.3%、必修15.0%、体育学部2.1%と各コースとも低いことからバレーボールの生涯スポーツとしての可能性が伺える。したがって、指導者としては、授業を通してわからないと回答しているものを少しでも多く参加すると思えるようにする授業の工夫と努力を研鑽していくことが重要であると思われる。

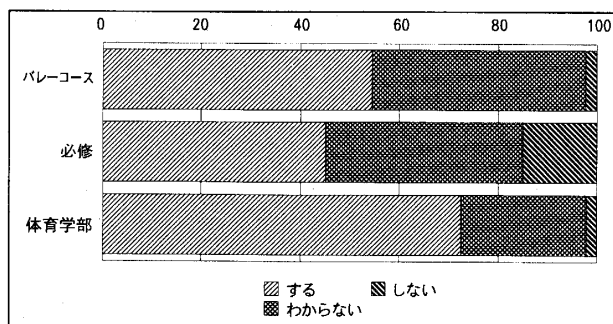


図-7 将来、バレーボールをする機会があれば積極的に参加しますか？

次にバレーボールを、好きか嫌いかと回答している要因は何にあるのかを調べるために1の好きですかという質問結果と他の項目の結果をクロス集計した。

7. バレーボールの楽しさは、何ですか？（好き・嫌いとのクロス）

バレーボールが、好きもしくはどちらでもない
と回答しているグループでは、圧倒的に「ゲーム
が楽しい」と回答している割合が高い（好き65.6
%，どちらでもない81.5%）のに比較して、嫌い
と回答しているグループでは、「ゲームが楽しい」
と回答している割合は21.4%とかなり低い割合に
なる。バレーボールが嫌いであるからゲームが楽
しくないのか、ゲームが楽しくないからバレーボ
ールが嫌いなのか、今回の調査からは判明させる
ことはできないが、楽しくゲームさせる工夫がバ
レーボール嫌いのものを減らす要因になるのでは
ないかと思われる。

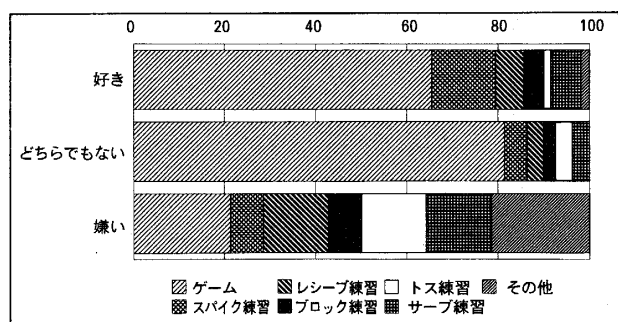


図-8 バレーボールの楽しさは、何ですか？（好き・嫌いとのクロス）

8. バレーボールの試合での楽しさは、何ですか？（好き・嫌いとのクロス）

バレーボールが嫌いというグループでは、好き
もしくはどちらでもないというグループより「チ
ームワークがいいこと」（好き16.7%，どちらでも
ない17.9%，嫌い28.6%）「試合が盛り上がる」
（好き21.8%，どちらでもない18.7%，嫌い28.6%）
の項目で割合が高くなっている。逆に「ラリーが
続くこと」（好き25.5%，どちらでもない27.6%，
嫌い14.3%）では低くなっている。ラリーが続く
などのゲーム内容よりも、チームでの人間関係が
良好であることとか試合の雰囲気がいいとか受動
的な要因で楽しんでいることが伺える。したがっ
て、チーム編成における配慮，試合の雰囲気作り
なども授業におけるゲーム指導に必要であると思
われる。

また、技術要素をみてみると「スパイクが打て
る」「ブロックが止められる」「トスが上げられる」
が楽しいと回答しているものが一人もいなかった。
バレーボールは、コート中央を身長より高いネッ
トで二分分割されておりどうしても身長の低いもの
が不利になる。したがって、ネットの高さの考慮
や身長制バレーボールの導入などの必要があるの
ではないかと思われる。そして、技術練習や未熟
な技術レベルからでも試合の行えるルール導入
などの配慮も必要ではないかと思われる。

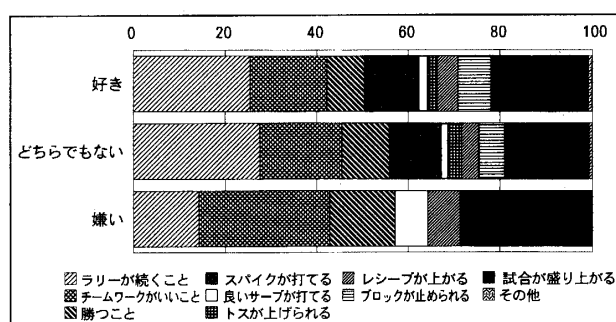


図-9 バレーボールの試合での楽しさは、何ですか？（好き・嫌いとのクロス）

9. バレーボールの試合での嫌なことは、何ですか？（好き・嫌いとのクロス）

ここでも8の結果の傾向と同じく嫌いというグ
ループでは、他の2グループよりも「ラリーが続
かない」は低く（好き18.9%，どちらでもない
20.0%，嫌い10.3%）「チームワークが悪い」が
高い（好き15.6%，どちらでもない17.0%，嫌い
20.7%）傾向が伺える。また、技術要素では、
「レシーブが上がらない」が嫌いというグループ
で高い（好き5.1%，どちらでもない4.4%，嫌い
13.8%）傾向にある。レシーブは、三段攻撃の最
初のプレーであり、レシーブの良し悪しがチーム
のコンビネーションプレーの成果に大きく係わっ
てくる。したがって、レシーブが苦手なことが、
チームに迷惑をかけることになると考えて嫌いな
もののグループで高い傾向になっているのでは
ないかと思われる。ここからも、技術練習や未熟
な技術レベルからでも試合の行えるルールの導入
などの配慮も必要ではないかと思われる。

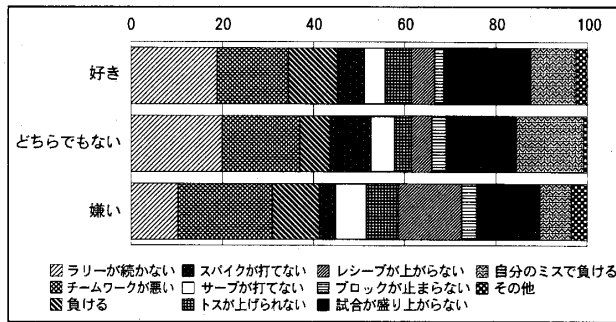


図-10 バレーボールの試合で嫌なことは、何ですか？(好き・嫌いとのクロス)

10. 将来、バレーボールをする機会があれば積極的に参加しますか？(好き・嫌いとのクロス)

バレーボールが好きというグループにおいて積極的に参加するというものの割合が圧倒的に他の2グループより高い(好き72.9%, どちらでもない16.0%, 嫌い14.3%)。バレーボールが好きなもののグループであるから当然の結果であろう。どちらでもないと嫌いの2グループで参加するというものの割合はほとんど変わらないが、わからないと回答しているもの割合はどちらでもない69.3%, 嫌い21.4%とその割合に大きな差がある。どちらでもないというグループのものは、積極的に参加するものが大きく増える可能性はあり、今後その要因を探る必要があると思われる。

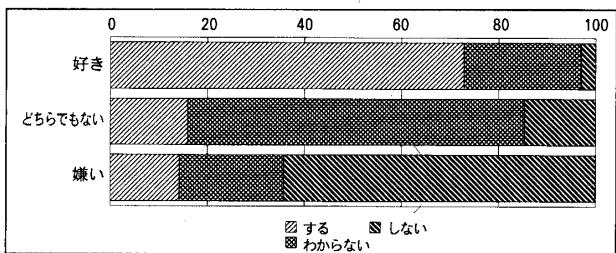


図-11 将来、バレーボールをする機会があれば積極的に参加しますか？(好き・嫌いとのクロス)

4. まとめ

1999年5月、文部省は、2002年度から始まる完全学校週休5日制に即した小・中学校の学習指導要領を発表した。その中で「地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる」ことを「内容の取

扱い」に示した。

したがって、ソフトバレーボールの導入によりバレーボールが普及されることが期待されるが、受講生がバレーボールをどのようにとらえて感じているのかを教師が知っておくことは、授業を展開するにあたり重要であると考え、これまでに体育の授業でバレーボールを経験してきた大学生が、バレーボールをどのように感じているのかを調査し、究明していくことによってこれからのバレーボールの指導の基礎資料になることを目的に、5大学293人の大学生に調査を行い以下のような結果を得た。

1. 「バレーボールは、好きですか？」という質問で、69.3%の203人がバレーボールが「好き」とであると答えており、「嫌い」とであると答えたものは4.8%の14人であった。また、授業形態別でみると、バレーコースで「好き」と回答しているものが86.4%で他の2コース(必修59.7%, 体育学部76.8%)よりも高い値であった。
2. バレーボールの授業で楽しいのは何かを聞いてみた結果、「ゲーム」と回答したものが圧倒的に多く84.6%であった。また、技術練習の中では、「スパイク練習」が14.7%でトップとなり以下「サーブ練習」7.8%、「レシーブ練習」7.5%、「ブロック練習」5.1%、「トス練習」3.1%となった。
3. 「バレーボールの試合での楽しさは、何ですか？」という質問をした結果を見ると、一番多かったのが「ラリーが続くこと」で51.2%、以下回答率の高かったのは「試合が盛り上がる」42.3%、「チームワークがいいこと」34.5%、「スパイクが打てる」22.9%、「勝つこと」17.7%などとなった。
4. 「バレーボールの試合でのいやなことは、何ですか？」という質問した結果「ラリーが続かない」34.1%、「試合が盛り上がらない」33.1%、「チームワークが悪い」29.7%が上位を占めた。
5. バレーボールの各技術を好きかどうかという

質問をした結果「スパイク」が好きだと答えたものが67.5%でトップだった。以下、好きという回答の多い順に並べると「レシーブ」58.6%、「サーブ」57.2%、「ブロック」44.5%、「トス」43.7%の順となった。

6. 「将来、バレーボールをする機会があれば積極的に参加しますか？」という質問を行った結果バレーボールコースの受講生で「する」と回答したものが54.5%は意外に少なかった。体育学部の学生が一番積極的で72.6%、必修のクラスでは45.1%であった。また、「しない」と回答しているものもバレーボールコース2.3%、必修15.0%、体育学部2.1%と各コースとも低かった。

以上の結果を踏まえて、今後の授業におけるバレーボール指導において技術指導・班編成・試合のルールそして授業の雰囲気などをどのように工夫すれば、受講生がバレーボールを積極的に参加することが出来るようになるか、今後も研究を続けていきたいと思う。

参考文献

- 1) 文部省；小学校学習指導要領解説 体育編, pp5-8, 1999.
- 2) 下村哲夫；月刊教職課程, pp18, 1999.
- 3) 日本ソフトバレーボール連盟 編；ソフトバレーボールハンドブック, 大修館, pp7-8, 1992.
- 4) 宮内一三；バレーボールにおける学習指導に関する一考察, 神戸親和女子大学教育専攻科紀要 第2号, pp103-113, 1997.
- 5) 宮内一三；バレーボールにおける学習指導に関する一考察（第2報）, 神戸親和女子大学教育専攻科紀要 第3号, pp53-65, 1998.